



本社工場の外観

豊富な実績とノウハウで次世代ものづくり設備を提案する

智頭電機 株式会社

事業内容と沿革

産業用ロボットのシステムアップ事業で業容拡大

昭和28年12月、^{あしたに} 芦谷親夫氏が出身地である^{ちず} 鳥取県智頭町の地名をとり、智頭鉄工所（現 智頭電機）を大阪府守口市で創業。戦前に勤務していた松下電器産業（株）（現 パナソニック（株））向けの外注請負を主に行っていたが、昭和34年現在の大阪府門真市への移転、そして当時、松下電器産業（株）で生産技術に携わっていた^{あしたに} 芦谷光氏を婿養子で迎え入れることにより、生産設備の設計・製造へと業容を拡大。現在のオーダメイドの生産設備の製作を得意とする智頭電機の業容の基礎を作る。そして現在は、「次世代ものづくりを担う産業用自動化設備の設計・製造」、「産業用ロボットの活用提案」、「自社中国工場、タイ工場を活用した日系海外進出企業の地産地消での設備製作支援」を3本柱に事業を展開する。

売り上げ全体としてはパナソニック（株）関連の案件が同社の屋台骨を支えているが、約7年前から始めた、産業用ロボットのシステムアップ事業が奏功し、ここ最近の取引先は電気・電子分野だけでなく自動車分野、食品・飲料分野など多岐に広がっている。また、地元中小企業へのロボット導入サポートも積極的に進めている。

海外は中国とタイに工場を展開。現地の人材を採用・育成し、国内工場同様の品質で設備製作を可能としている。そのため顧客は日本から製作した設備を現地に輸送する必要がなく、輸送コスト、関税など経費低減することが可能。「日本製作の同様の設備製作とメンテナンスを現地でできる（地産地消）」と顧客からの評価は高い。

強み

オーダメイドで顧客ニーズにきめ細かく対応

強みは技術力を軸とした提案力である。長年にわたり大手電器メーカーの厳しい要望にこたえてきた実績がこれを証明している。生産設備の設計からラインのプロデュース、メンテナンスまで一貫してものづくり設備をサポート。製造現場の“量産”効率を高める取り組みに力を入れている。加工工程から組立・検査・梱包工程まで、豊富な設備製作の経験を有している。これに加えて産業用ロボットについては平成21年に社内で専門チームを結成。企業の生産設備でのロボット活用に対応する体制を整える。大手企業のロボット自動化ラインにはもちろん、中小企業向けにはロボットの特性を生かした“多品種・少量生産”ラインの省力化など提案にも磨きをかけている。産業用ロボット先端のハンド部分については、導入する企業側で準備する必要があるが、同社では中小企業庁の「ものづくり補助金」で導入した3Dプリンタを活用し、ハンド部分のプロトタイプの製作も行う。

同社はロボットシステムインテグレート事業の先駆的な存在であり“量産”と“多品種・少量生産”の両軸で生産性向上をサポートできるのが武器である。

産業用ロボットを活用した生産設備の設計・製作を手がける企業は、国内では今のところ少ないため、幅広い製造現場から引き合いがある。



自社開発のロボット研磨システム



展示会へ出展の配線ロボット



ロボット開発チームの面々

- 企画・提案
- 試作・受託
- 短期期対応
- 多品種少量
- 量産対応
- コスト相談
- オンラインワン
- 海外対応

カドマイスターの取り組み

文系女性を技術部門に配置し“属人的業務”をなくす

何より特徴的なのが、機械設計や制御設計など技術部門へ文系の女性社員を積極的に採用・配置していることだ。技術部門というイメージがあるが、女性社員にも図面の作成や設計をサポートさせている。あえて経験や知識のない文系女性に業務させることで“暗黙知”や“属人的業務”の弊害をなくすのが狙いである。上司や先輩が、業務をかみ砕いて説明・指導しなければならぬ環境づくりを進め、柔軟な発想を後押ししている。加えて現在では配属された女性社員が設計サポートだけでなく設計者として立ち立っている事例も出てきている。

国内工場と海外工場の若手従業員の協働の場を創出

高齢従業員の雇用については65歳までの再雇用制度はもちろん、65歳以上になっても元気であれば引き続き勤務できるよう体制を整えている。

また、中国やタイなど同社の海外工場から現地従業員を受け入れたり、反対に、国内の従業員を海外工場で研修することで相互交流を行なっている。これにより日本のものづくりの再認識と外国人スタッフの能力向上を図っている。また、国家技能検定やロボットメカ主催のロボット検定などにも従業員を積極的に挑戦させ、技術技能を強化している。

設計・製造から設備保全まで、トータルサービスで事業を展開



代表取締役社長
あしたに なおし
芦谷 直人さん

長年、大手電器メーカーの生産設備を手がけ、そこから得たノウハウと蓄えた技術力が自慢です。経験と実績を積み重ね、現在は全加工工程から組立工程、検査工程までの全自動ラインに欠かせない技術を有するに至りました。これらの強みを生かし、幅広い分野のさまざまな顧客ニーズに柔軟に対応しています。大規模な生産ラインの構築も請け負うことができます。納入先からのリピートオーダーが数多く、このことが顧客満足度を表していると自負しています。今後はさらに技術力を高め、地元中小企業のロボット導入のコンサルティング拠点として地域に貢献できることも目指します。

主な事業内容
生産設備の設計・開発・製造と産業用ロボットの活用を提案
主な取引先（納入先）
大手電器メーカー、自動車部品メーカー、食品・飲料メーカーなど

【住 所】〒571-0051 大阪府門真市向島町1-8
【TEL】06-6901-5174
【FAX】06-6905-1490
【創 業】昭和28年12月 【設 立】昭和28年12月
【資本金】4,000万円 【従業員】111名

今後の展開

ロボットシステムアップ事業でさらなる競争力強化を目指す

生産設備に求められるニーズは多様化しており、柔軟かつ効率的なものづくりの展開を支える産業用ロボットの導入は、これまで以上に注目されている。しかしながら現在、産業用ロボットはそれ単体で導入しても直ちに現場で活躍できるというものではない。顧客の要求仕様が強く、周辺設備との動作検証、稼働率アップ、不良率低減など技術的に解決すべき問題が少なくないからだ。また最終的には費用対効果が導入を決める最大の要因となるため、新分野を開拓することは容易ではない。

このような背景のもと、同社が目指すのは、これまでの提案力にさらに磨きをかけること。ロボットメカ、販売代理店とのコミュニケーションを密にし、顧客の製造現場の動向やニーズを細かく把握。また、社長が自らさまざまな展示会に足を運び、業界のトレンドや情報を手に入れ、自社にフィードバックしている。これらの取り組みにより設計・開発を加速し、業界に先駆けて取り組んできたロボット関連事業で、差別化と競争力強化を図る考えである。

<https://www.chizudenki.co.jp/>

